

【現状・課題・目的】

当管内は、利用期に達した人工林の木材生産は活発ですが、林業事業体における伐採から木材搬出までのコスト縮減や伐採後の造林コストの縮減に向けた取組が進んでいない状況にある。

このため、木材生産、造林の低コスト化を含めた林業の持続的経営の意欲と意識を高めていくことが課題となっているため、工程管理システム使用の定着化を目的に取り組んでいる。

【これまでの取り組みや成果】

平成28年度に、置戸町内の事業体を対象に工程管理システム勉強会を行い、工程管理システムの活用方法、工程管理の重要性などを説明し、改善事例やデータの提供を依頼した。

平成29年度は工程管理システムの試用を町内の事業体に働きかけ、3社が取り組むことで同意が得られた。

【平成29年度の取組結果・成果】

① 工程管理システムの普及に向けて

造材作業効率化、生産性向上のツールとしての工程管理システムの試用の協力を求めて8月に置戸町の林業事業体、森林組合を訪問依頼し同意を得られました。

8月に工程管理システムプログラムのCDを手渡して、再度、内容や目的、作業種毎の進捗状況把握や機械の稼働状況も確認できるなどの利点について説明し、年内に試してみた感想等について直接、聞くこととした。

② 工程管理システムへの意見等の把握

工程管理システムを活用した内容を知るために、個別に会社へ伺って工程管理プログラムの使い勝手や入力項目等について意見交換を行い、また、工程分析表のデータを頂いた。

- 事業体からの意見として、
- ・機械損料について会社によって使用時間、経費などの把握方法、機械購入の仕方の違いなどで機械毎の損料を集計、算出するのに時間が掛かる。
 - ・現場からの低コストの意識付けには作業進行を見ながら、作業種毎に確認できるので良い等の意見があった。

③ 一貫作業システム等の現地勉強会の開催

上記の取組に加えて、今年度から実行している一貫作業システムとコンテナ苗の植付けに関する現地勉強会を8月に、佐呂間町、置戸町の林務担当等を招いて実施した。

コンテナ苗の利点と取扱について、オーガ使用にあたっての植付け穴の深さについての留意点について説明した。

【今後の取り組みで目指すところ】

工程管理システムを使ってもらい、工程分析表データを収集し意見交換をした内容を踏まえ、地域の素材生産の低コスト化への足がかりとして、工程管理システムの継続使用と事例を蓄積して、見える化資料作成し現場からの低コスト化へのきっかけづくりを目指します。

【今後の目標】

地域の林業事業体に対して、工程管理システムを通じて生産現場から低コスト化への意識醸成を目指していきます。



項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度実績	平成32年度実績
総計	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
植付	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
伐採	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
搬出	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
その他	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000

